

「隣の町まで歩いてみよう」

そう思った事ありませんか？

車や電車では行ったことはあるが、歩いて行ったことってない。一度行ってみたい。同じ行くなら、誰かで行こう。2人より大勢がい。どうせ行くなら、早く着いた者に褒美を出そう。競争だ、よいドン！スポーツの最初の一步は、こんな単純な「遊び心」から始まったんじゃないだろうか。

「あれっイシマル君は、近道によそんちの庭を通ったぞ、いいのか？」。では、これからは、しつかりとルートを決めます。「すみませ〜ん、イシマル君にゴールで進路妨害されたんですけど」。では、ルールを作りましょう。他の出場者の邪魔をしてはいけない。触ってもいけない。「イシマル君に、ネチネチとしゃべり掛けられて、集中出来ないんですけど」。はい、ではしゃべってもいけません。「イシマル君、なんか変な薬飲んでるんですけど」。試合後尿検査します。「イシマル君、チヨコレートもらつて、わざと負けたらしいよ」。追放！

「遊び心」は、どんどんルールを作り、進化していく。この先、どんな風に枝分かれし、発展していくのかと考えると、楽しみで仕方がない。さあ、私たちも原点に戻って、その一步を踏み出そうで

はありますか、隣の町に向かっ

て。  
半年間、私の主観的なスポーツを観戦いただきまして、ありがとうございます。今回で、残念ながら試合終了となります。どこかで、汗を流している私を見かけたら、声を掛けて下さい。

そうか、大リーグに進出した野茂選手もイチローも、初めはこう思っただけなのかもしれませんね。

「隣の町まで、行ってみよう！」

〃おわり

【朝日新聞・マリオン】

2007年3月28日掲載